

INDEX

- ① 巻頭言
- ② 滝寺お花まつり
- ④ 愛染寮創設80周年記念『愛染寮 今昔物語』
- ⑥ 梅寿荘デイセンター寿楽始動
- ⑦ あくなみ苑開所式
- ⑧ 新規採用職員研修会
- ⑩ 児童施設より
- ⑬ 高齢者施設より
- ⑭ 役員会報告・ニュース
- ⑮ 新施設長紹介・人事紹介
- ⑯ 決算報告

社会福祉法人 宝山寺福祉事業団 〒630-0257奈良県生駒市元町2-14-8桃李館内 TEL:0743-74-1172/FAX:0743-74-1911

巻頭言

「愛染寮開寮！その秘話」 理事長 辻村 泰範

愛染寮創設を物語る和綴しの庶務日誌が残っている。昭和21年11月より23年12月27日に至る記録だ。日誌の一部を紹介する。

「10月10日寮長高野山より創設準備の為下山。11日寮長滝寺居住を開始。厚生課に於て事情を聴取。12日宝山寺事情を報告。13日西大寺に於て宗務長と打合。14日生駒警察署、々町役場、地方事務所を訪問。15日県厚生課。16日宝山寺に於て宗務長と打合。17日米軍政府厚生課に出頭。18日県厚生課、地方事務所に出頭。今村文匡着任。19日農機具購入の為大阪出張。21日新田義人来寮。信多マチ着任。24日米軍政府土屋通訳来寺（宝山寺）事業に関し住職と打合。」

師匠駒岡乗圓宝山寺住職の命を受け、決意を固めて高野山を下った辻村泰圓は早速滝寺に住み込み、翌日から連日休む間もなく関係機関を訪問、施設開設のために走り回っていたことがわかる。

「11月7日同胞援護会県支部主事下村春之助氏々会土井氏と引揚児童曾和頼一を伴い来寮。11月8日曾和兄弟6名姉松場英子々義父松場春一郎氏来寮兄弟5名を受入。9日米軍政府土屋通訳視察の為来寮。」
同胞援護会を通じて愛染寮の最初の入所児童曾和兄弟5名が滝寺に開設さ

れた宝山寺愛染寮に受け入れられたのだ。満州で親と生き別れになった兄弟だ。そしていよいよ開寮式を迎える。

「11月17日寮長開寮式記念品の件に就き奈良出張正午帰寮。午後酒井常任幹事来寮事業（創設経常）額に付本日住職の承認を得。18日寮長開寮式招待の為県庁、米軍政府に出頭、児童奈良東大寺他見学。19日開寮式場準備の為酒井常任幹事外宝山寺より来寮準備概ね完了。午後寮長西大寺出張。20日水曜快晴。開寮式挙行、出席者県文化課長外24名盛会裡に閉式、終つて宝山寺に於て昼食午後2時滞りなく完了。21日午前寮長生駒警察署へ、引続き町役場に赴き甘薯受領、保護法に依る補助金申請困難者登録を要す。」

高野山を下りわずか1ヶ月で愛染寮を開設したのだ。ここに登場するのは、宝山寺、西大寺の他、奈良県厚生課、生駒町役場、生駒警察署、米軍政府だ。児童福祉法はもろろん社会福祉制度そのものがまだ整っていない。戦後の混乱期、関係者関係機関を説きまわって家族を失った子供達の安住の施設を作ろうとした泰圓師の獅子奮迅の活躍が眼に浮かぶ。当時の米軍政府つまり敗戦後の日本を占領統治していた連合軍は奈良市に駐屯地を置いていた。最高司令部GHQの出先機関

が愛染寮の創設に深く関わっていたのは大変興味深い。実は、GHQは日本政府に対して民間の施設に対して補助金を支出することを認めない指示を出していた。

「22年3月19日寮長奈良行、県厚生課西大寺等、之昨日電話あり至急打合せたき事あるに由り出頭求められし為なり、町有民営問題に関する書類及認可申請手続きの件なり」
泰圓師等はGHQの指示を回避するために愛染寮を形式的に町有民営の体裁をとったようである。このことは後になって27年11月1日に書かれた社会福祉法人設立の趣意に触れられている。

「戦後、宝山寺住職駒岡師は、仏教的立場より境内の一部を開放し、これら児童の遊び場として宝山寺児童遊園を設置、他方山腹の末寺大乘滝寺を生駒町に提供して養護施設宝山寺愛染寮を興してその経営を担当し、更に極楽院庫裡を奈良市に提供して極楽院保育所の経営を担当せしめる等、大いに社会福祉事業を振興した」
極楽院保育所やいま保育所が設立当初公立民営の形をとっていたように愛染寮も町立民営の衣を着ていたのだ。

今年には愛染寮創設80周年である。我が法人の草創期はかろうじて残された資料に関係者の熱いおもいを読み取ることができるのだ。

滝寺お花まつり

令和8年4月26日



滝寺お花まつりを終えて

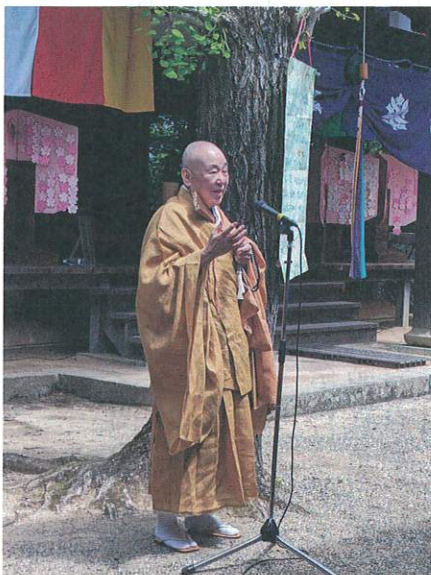
実行委員長

いこま乳児院 保育士 大倉 瑠子

4月26日恒例の滝寺花まつりが今年も開催されました。毎年、法人傘下の施設が順番に実行委員長を務めることになっていっているのですが、今年はいこま乳児院が担当となり、私が滝寺お花まつりの実行委員長を務めるといふ貴重な経験をしました。このような大役を任された経験の無い私は、最初は「自分にできるのだろうか」という不安が大きく、何から手をつければよいのか分からず、戸惑うことが多くありました。手探りで準備を進めて行く中で、様々な課題が見えてきました。準備の段取りや連絡の取り方等、考えれば考えるほどわからなくなり頭は毎日フル回転でした。そんな頭を悩ます日々の中で、辻村万里子院長や副実行委員施設として関わってくださった延寿の飯塚さん、清見さんにはとても助けられました。自分では気付けなかった点や、運営を円滑に進めるための工夫、アドバイスを教えていただき、多くの場面で支えていただいたことを本当に感謝しています。

滝寺花まつりの目的は、一つ目はお釈迦様のお誕生をお祝いすること、二つ目は日頃法人に関わって下さっている皆様に感謝すること、三つ目は法人職員の交流親睦を図ることという三本柱があります。

流れとしては、二部構成となっていて、一部は法人本部の桃李館から滝寺本堂まで年代物の白像さんを先頭にボイスカウト生駒一団、愛染寮の童笑(わらわら)さんの太鼓隊、そして19名の可愛いお稚児さんの行列が沿道での温かい拍手に包まれて進んでいきます。本堂では4名のお坊様の灌仏会法要が厳かに営まれました。前日までの天気予報では、雨予報。朝起きてカーテンを開けた時、予報は嘘のように朝日が差し込んでいました。仏様のご加護をいただいたように有難く感じました。





二部では、会場をいこま乳児保育園庭付近に移し、「愛染の鐘」を合図に食事屋台や遊び屋台、スタンプリリーなどがスタートします。屋台で難しかったのは、ベビーカーです。どのくらいで焼き上がるのか、生地をどれだけ流し込めば綺麗な形になるのかなど課題がありました。前日に試し焼きをしましたが、焼き始めた頃は焦げてしまったり、小さかったり、ベビーカーが流し込められなかったり、難しそうなお作業に見えました。しかし屋台担当者は火加減の調整や流し込む生地の加減などすぐにコツを掴んで、数回焼いた頃には、とても美味しいベビーカーが出来上がっていました。今年はお天気にも恵まれて、どのコーナーにもぎわっていました。屋台も次々と完売でした。



ファイナーイベントは、ステージの皆さんの身体を張ってのパフォーマンスのおかげで、子どもも大人も遊んだり踊ったり、ファイナーに相應しい盛り上がりの中、無事にお花祭りを終えることが出来ました。実はそこからは凄いです。職員は、テントやら椅子やら・・・テキパキとあつという間に実行委員長が指示するまでもなく、片付けが進んでいきます。トラックが横付けされて、次々と荷積みされたら借りた施設に届けられていきます。ベルトコンベアーに載せられたようにあつという間にいこま乳児保育園の花まつり会場は、いつもの園庭に戻りました。これが我が法人の持っている力なのだと改めて知りました。



荷の重い実行委員長を任せられて、過去10年分の花まつり仕様データを何度も見直して、過去をそのまま再現するのではなく、現在の状況に合わせて調整しながら、新しい運営方法を模索する・・・その作業は私には簡単ではありませんでした。その経験を多く積んでいる先輩職員さん達は、これまでの試行錯誤があり、目に見えない努力の積み重ねがあるのだということを知りました。未熟ではありましたが、良い経験をさせてもらったと思っています。

最後になりましたが、ご来場頂いた皆様、またお花まつり開催に向けてご尽力頂いた実行委員はじめ職員の皆様に感謝申し上げます。これからも滝寺花まつりを法人の大切な行事として続けて行けますように、ご支援とご協力をお願いします。

80年に思いを馳せる～

昭和

平成



2004年初釜



2003日杉の子荘の前で

今昔物語』

第1回 (3回シリーズ)

寮長 末松 保喜



滝寺、それは愛染寮創立の地。
昭和21年、それは創立の年。

ここに就職してその当時の資料には、
実にたくさん触れて来た。そして
創立時のことを実体験として話して
くださる方もいらっちゃった。そんな
中でいつしか私自身も入職後44年、
つまり愛染寮の歴史の半分以上を
共に重ねてきたひとりということに
気づき、感無量というか、めくるめく
日々を紡いできた端くれと改めて感
じた。

今や当時を実体験として語ってく
れる方は、残念ながらほほいさない。
それだけに今の私達が日々紡いでいる
ことを、これからしつかり次に繋い
で行く責任がある。80周年を記念して
3回シリーズで愛染寮今昔物語を
綴ってみたいと思う。

最初に断っておくが、創立当時から
昭和の頃の記録としての写真や文章
は、節目ごとに編集され比較的周知
されているので、今回は主に平成の
時代、21世紀になってからを辿る。





紡ぐ、繋ぐ日々～8

令和



2006旧食堂



2005ホームでクリスマス会したことも、



愛染寮創立80周年記念

『愛染寮』

わが機関誌ですが発行されたのが昭和57年の5月。読み進めてわかったことが二つ。一つは平成ひとけたの頃くらいまでは、子どもの顔出し写真がバンバン載っていたこと。それが10年を過ぎる頃からなくなり、今やご承知の通り本当に皆様に見ていただきたい笑顔が載せられないというもどかしさ。やがて広報の手段の選択肢が、紙媒体以外にもホームページ、そして広くインターネットにまで広がったということ。これによって記録の仕方や啓蒙活動の在り方が大きく変わった。うちの記録としても台紙付きアルバムから平成18年頃を境に、PCの外付け媒体に全て保存されるようになった。並行するかのよう施設の果たす役割も衣食住を充たすから+αの機能、専門性が問われるようになり、児童福祉法の改正と共に大きく舵を切って行くこととなる。

次回はその辺の変遷を、うちの記録を振り返ることによって見て行きたい。



梅寿荘デイセンター-寿楽 始動しました！

介護保険の始まりとともに在宅高齢者、そしてそのご家族の支援を担ってきた生駒市有里町のデイセンター寿楽が、市との委託契約が終了となり、その長いお役目を終えることになりました。市の建物の老朽化もありますが、兎にも角にもご利用者、職員の受け皿としてデイセンター寿楽は門前町の梅寿荘内に併設されることになりました。

デイセンターを迎えるべく改修工事を終えた梅寿荘で令和8年3月29日、雲一つない晴天のもと小紫雅史市長、片山誠也市議会議員議長、辻村泰範理事長の手による新たな出発のテープカットを皮切りに、ご来賓の方々に見守られ梅寿荘デイセンター寿楽の開所式が執り行われました。



華やかにテープカットが行われました



昼食前の口腔体操

梅寿荘デイセンター寿楽
センター長 森本 公子

副主任生活相談員 服部 草太

私は特養で7年間勤務し、今年4月よりデイセンターへ異動となりました。長く特養で勤務していたこともあり、異動当初は業務内容やご利用者との関わり方の違いに戸惑うことも多くありました。しかし、実際に働く中で、特養とデイセンターでは支援の目的や求められる役割が大きく異なることを改めて実感しています。

特養では、ご利用者の生活全般に関わり、食事・排泄・入浴など日常生活を支える介護が中心でした。長期的に関わることで、小さな体調の変化や感情の変化にも気づきやすく、一人ひとりの生活に深く寄り添う支援が求められていました。また、ご利用者にとつて施設が「生活の場」であるため、安心して穏やかに過ごしていただける環境づくりを常に意識していました。

一方、デイセンターでは、在宅生活を継続するための支援という視点がより重要であると感じています。ご利用者はご自宅で生活されており、その生活を維持するために心身機能の低下予防や社会参加の機会づくりが大きな役割となっています。そのため、ただ介助を行うだけではなく、「また来たい」「ここに来るのが楽しい」と思っただけでなく、そのような関わりや雰囲気づくりが必要だと感じています。

特に印象的だったのは、ご利用者とのコミュニケーションの時間の多さです。デイセンターではレクリエーションや会話を通じてご利用者に関わる場面が多く、楽しみながら過ごしていただくことの大切さを日々学んでいます。ご利用者の表情や言葉から、その日の体調や気分を読み取り、個々に合わせた対応を行うことも重要であり、特養で培った観察力や対応力が活かせる場面も多いと感じています。

また、デイセンターではご家族との関わりも多く、送迎時や連絡帳などを通してご利用者の在宅での様子を知る機会があります。施設内だけでなく、ご自宅での生活背景も踏まえて支援を行う必要があるため、多職種との連携や情報共有の大切さを改めて感じています。

今後は、特養での経験を活かしながら、ご利用者一人ひとりに寄り添った支援を行っていきたくと考えています。また、デイセンターならではの明るく活気のある雰囲気づくりにも積極的に取り組み、ご利用者が安心して楽しく通える場所を目指していきたいです。さらに、職員間の連携を大切にしながら、自分自身も新しい知識や技術を学び続け、より良い支援につなげていけるよう努めていきたいと思えます。

社会福祉法人宝山寺福祉事業団
老人総合福祉施設あくなみ苑 法人開所式



老人総合福祉施設 あくなみ苑
開所式のご報告

老人総合福祉施設 あくなみ苑

施設長 田中 将史

令和8年4月1日より老人総合福祉施設あくなみ苑は、西和七町で組織された三室園組合より当法人へ無償譲渡され、新たに一步を踏み出しました。これを受け、4月4日（土）に開所式を執り行いました。今回の式典は、新規オープンするのではなく運営主体の変更を伴うものです。そのため、華美な式ではなく、ご利用者・法人関係者・職員が心を寄せ合い、共に歩み出しを祝う温かな会として開催いたしました。当日の天気予報は雨。朝から空を見上げては心配しましたが、なんとか持ちこたえてくれました。苑の周囲に咲き誇る桜が鮮やかに映えています。式典会場には、ご利用者、ご家族の皆さまがゆつくりと席に着かれ。職員が寄り添いながら準備を進める姿がありました。普段と変わらぬ穏やか空気の中「今日という節目を皆で迎える」という静かな高揚感が漂っていました。ご来賓には三室

園組合管理者 三郷町長 木谷様
安堵町長 西本様、三室園組合事務局長 三郷町住民福祉部長 辰巳様、特別養護老人ホーム三室園施設長 西谷様が、年度初めのご多忙な時期にもかかわらず、ご臨席いただきました。お二方の町長様からは、あくなみ苑のこれまでの歩みと地域福祉への貢献を温かく讃えるご祝辞を賜りました。ご利用者の皆さまも真剣に耳を傾けられ、言葉の一つひとつに安心と期待が広がっていく様子が印象的でした。



辻村理事長からは、あくなみ苑の開設から今日に至るまでの歴史、宝山寺福祉事業団が委託を受けてきた経緯、そして今回の譲渡によりご利用者の生活に大きな変化はないことが丁寧に説明されました。特に過去に有料老人ホームで経営者の変更に伴い、利用料やサービス内容が変わり、やむなく退所された経験を持つ方々にとって、この説明は大きな安心につながったように、聞き入る姿が見られました。

さて、本年、当法人は設立80周年を迎えます。さらに、あくなみ苑も12月で開設30周年という節目を迎えます。長い年月の中で、地域の皆様に支えられ、先人たちが築き上げてきた信頼と実績、その想いをしっかりと受け継ぎながら、これからも地域に根差し、必要とされる施設であり続けるために、職員一同、より一層の努力を重ねてまいります。

最後になりましたが、辻村理事長をはじめ、法人役員の皆さま、施設長の皆さまには、お忙しい中ご参加いただき、心より感謝申し上げます。満開の桜とともに迎えたこの日を、あなみ苑の新たな歴史の第一歩として、これからも歩み進めてまいりますので、今後とも変わらぬご指導、ご鞭撻のほど宜しくお願い致します。



辞令交付式・研修会

研修委員長 辻村 泰聡 (極楽坊あすかこども園)

今年度新たに法人の仲間に加わる職員の辞令交付式と研修会が開催されました。契約職員は3月25日の1日間、正規職員は3月25日、26日の2日間開催し、契約職員8名、正規職員18名が参加しました。



辞令交付式



理事長訓示



正規新採用職員



契約新採用職員

施設見学

法人には10以上の拠点があり、配属されてからは、なかなか他の施設を見ることもありません。正規職員は、1日目には法人内の各施設と、法人と縁の深い宝山寺、大乘瀧寺、元興寺を回りました。生駒市をはじめとした2市2町にまたがって福祉事業を展開している様子を知る機会になりました。

新採用職員からのメッセージ

『新採用研修を受けて』

あくなみ苑 看護師 清重 あすか



今回の新採用研修を受けて、介護・看護に携わる職員として必要な考え方や姿勢を学び、法人の一員としての責任を改めて実感しました。利用者様やご家族との信頼関係を築くためには、日々の言動や関わり方が重要であり、相手の立場や思いを考慮しながら行動する事の大切さを学ぶことが出来ました。

宝山寺福祉事業団の施設見学では、各施設が利用者様一人ひとりの状態や生活に合わせた支援が行われている事を知り、私自身も安心して生活していただける関わりを行っていきたいと感じました。

法人理念である「志存興法 念在利生」については、看護師として常に学び続ける姿勢を持ちながら、利用者様に寄り添い、

その人の思いを大切にすることの重要性を学びました。特別養護老人ホームでは、認知症を有する利用者様や人生の最期まで生活される方も多くおられるため一人ひとりの生活歴や価値観を理解し、その人らしさを大切にしたい関わりが必要であると考えるようになりました。また、利用者様が、安心して日々の生活を送る事が出来るよう、身体面だけでなく精神面にも目を向けた支援を行っていききたいと思います。

今後は、日々の小さな変化にも気付けるよう丁寧な観察を行い、多職種やご家族と連携しながら安心して生活して頂ける環境づくりを努めていきたいです。また、言葉遣いや表情、声のトーンにも気を配り、安心感を持つていただけるコミュニケーションを心掛けていきたいと思えます。

辞令式を終えた今、法人の一員としての自覚を持ち、今回の研修で学んだことを日々業務に活かしながら、利用者様に寄り添った看護を実践していきたいです。



コンプライアンス



リスクの理解(黒川委員)



理解力(貝田委員)

辞令交付式・理事長訓示

契約職員は25日に、正規職員は26日に、それぞれ理事長から採用辞令を手渡されました。緊張感のある雰囲気の中、法人職員としての新たな一歩を踏み出す決意を抱いた表情が印象的でした。その後、理事長から訓示があり、法人の歴史や理念について、また法人職員として働くことについての基本的な心構えについて話されました。

研修会

法人の研修委員会が企画する座学研修を行いました。それぞれ「コンプライアンス」「リスクの理解」「理解力・伝達力」「接遇・マナー」の内容で、グループワークなども取り入れた講義でした。職員としての基本を学ぶだけでなく、同期の職員さん同士の繋がりを作る機会にもなったと思います。



接遇マナー(契約)斉藤センター長



接遇マナー津村先生

Message from New Staff



『新採用職員辞令交付式
並びに研修会を受講して』
愛染寮 児童指導員 江南 里莉花

新採用職員辞令交付式並びに研修会に参加しました。一日目は宝山寺福祉事業団の各施設を見学させていただきました。知っている施設もありましたが、初めて知る場所も多く、それぞれの場所で仲間が利用者さんのために一生懸命働いている姿を見ることで、励みになりました。また、利用者の方々に挨拶をする笑顔で返してください、とても温かい気持ちになりました。

二日目は辞令交付式と研修を受けました。まず最初に、梅寿荘デイセンター長の伊藤さんよりコンプライアンスについてお話をいただきました。福祉職は人の人生に深くかわる仕事であり、責任ある行動が求められること、そのためには一人で抱え込まず、ルールを守りながら周囲と連携することが大切だと学びました。また、第三者から見ても説明できる行動を心掛けることが、利用者や職員を守ることに繋がる

と感じました。次に、児童発達支援センター仔鹿園副主任保育士の貝田さんより、理解力・伝達力について学びました。グループワークやゲームを通して、相手を理解し、自分の考えを分かりやすく伝える大切さを実感しました。続いて、梅寿荘主任生活相談員の黒川さんより、リスクの理解について学びました。誤飲や怪我、外出時の事故など、日ごろから危険を意識し利用者の様子をよく観察することが事故防止に繋がることを実感しました。最後に、フェリアンの津村講師より接遇マナーについて学びました。特に「自分の弱さに気づき、助けを求められる人は強い」という言葉が印象に残りました。そのため、現在愛染寮で勤務しているが、分からないことはすぐ先輩に相談しながら働いています。

児童施設より

10p

愛染寮

12p

児童発達支援いつぼ
いこま乳児保育園

14p

あすかの保育園
いこまこども園

11p

児童発達支援センター仔鹿園
いこま乳児院

13p

奈良県発達障害者支援センターでいあー
極楽坊あすかこども園

15p

こども支援センターあすなるメディカル
平城児童センター

80周年!メモリアルイヤーのスローガンは 「パリピ!AIZEN!」

愛染寮

副主任保育士 白井 絵里菜

80周年のメモリアルイヤーがついに始まりました。今年度は周年企画として夏には海への里帰り～レッツ石垣! 秋には華道習作展、年明けに記念式典と盛りだくさんの一年となっております。4月の会議で寮長より「このメモリアルイヤーをとことん楽しもう!」とお話があり、職員一同気合を入れて楽しもうと決意表明しました。

さて、新しい職員さんを迎え、子ども達も新しい学年になり、年度の初めは色々な変化もありますが、1ヶ月も経つと少しずつ落ち着いてきました。こどもの順応する力はすごいものです。一方で少し

ずつ課題も見えてきます。毎年この時期に子ども達と一緒に一年の目標を考えて決めています。子ども達なりに考える目標は勉強のこと、生活のこと、性格的なことなど様々ですが、自分のことを考えるよい機会になっています。私たち大人もこの一年をどう過ごすか、自分で課題を整理して目標を立てる機会が必要では?と感じます。

子ども達が楽しく過ごせるよう、職員みんなが楽しく仕事ができるよう、この一年間力を合わせていきたいと思います。



80周年に、スカウト諸君も気合が入る!



私、小5女子のM!私の作ったお弁当で～す。

新年度を迎えて

令和8年度、今年度は定員を少し減らして31人の子どもたちでスタートしました。

新入園の子どもたちが少ないこともあってなのか、例年に比べると穏やかな始まりです。もちろんお母さんと離れる際に泣いてしまうという姿はありますが、中にはもう何年も過ごしているかのように落ち着いた様子を見せてくれる子どもたちもいます。

2年目、3年目の子どもたちはどうでしょうか？「先輩」という余裕なのかと思いきや、クラスが替わり、お友だちが替わり、先生も替わり…緊張した顔をしていたり、泣き出すことが多かったり、いつも元気に走り回っていたのに大人しかったり、と

児童発達支援センター仔鹿園

主任保育士 雄谷 恵美

前年度とは違う様々な姿があったりもします。戸惑いと不安、期待などが入り交ざり、子どもたちも職員も緊張しながら新しい環境でのスタートを迎えましたが、数カ月が過ぎる今、もうすっかり慣れて賑やかな日常を送るこの頃です。

さて、ここ最近「～がしてみたい」「～できたらいいよね」という声が職員の中で上がっています。日々の業務改善も進む中、このような声上がるのは嬉しいことです。何か新しいことや楽しいことが始められるかもしれません。果たして有言実行となるのか？

この一年も充実した療育が提供できるように、頑張っていきたいと思います。

新年度を迎えて

長らく女所帯だった乳児院に男性職員が異動してくると知った職員たちは、期待と緊張が入り混じる中で新年度を迎えました。人事刷新への不安もありましたが、そんな不安をよそに、愛染寮からやってきた菅尾次長の人柄は、すぐに乳児院に馴染み、私たちの未来に新しい光が差し込んできたように感じています。乳児院では、職員は子ども達から「あーちゃん」と呼ばれているのに対して、菅尾次長は「おーちゃん」と命名され、早くも子ども達からも絶大な人気を集めています。

さて、新年度を迎えた乳児院ですが、やはり入所児は減少傾向にあります。このような現状を踏まえ、令和8年度のあるべき姿について話し合いを重ねています。

一つ目は、乳児院で生活する子ども達が自分らしく過ごせる場所を確保するための「巣作りルーム」についてです。この部屋は作られてから13年目を迎えます。子ども達は様々な背景を持って乳児院にやってきます。子ども達と共に過ごす3年間は、人生の基盤となる大切な時期です。この時期に関わる私たちとしては、どんな子ども達でも「生きる力・喜ぶ力・耐える力」を引き出せる場所にしたいと思っています。「巣作りルーム」のあり方

いこま乳児院

主任 廣津 小百合

を見直す取り組みに力を入れ、その成果を法人の研究発表会でお伝えできたらと取り組んでいます。

二つ目は、「地域と共に子ども達と寄り添うこと」です。現在、子育て短期利用事業である「ショートステイ」を実施していますが、年々利用者が増えています。この事業は市町村と協力し、地域の親子に寄り添う仕組みです。私たちはそのニーズをしっかりと受け止め、地域の方々の期待に応えていきたいと考えています。



おーちゃん、がんばれ!

今年もウマ(馬)くいきますように!

児童発達支援いっぽ

主任保育士 大島 友美

2026年、今年の干支は『午年』です。古来より馬は人や荷物を運んで旅で活躍する大切な存在、という事から「福を運ぶ」「縁を運ぶ」と縁起が良い年とされているそうです。いっぽには茶と白の馬の被り物があり、「お馬ちゃん」と呼ばれて親しまれています。そんなお馬ちゃんですが、ここぞ!とばかりに先生たちが撮ったおもしろ動画で、また別の時にはお別れ会の催しで、そしていっぽの玄関で子ども達をお出迎え、という具合で例年にも増して大活躍中です。直近ではお花まつりの施設紹介にも登場しました。なんとも言えない表情のお馬ちゃんに子ども達はやや恐れをなしているようで遠巻きに見ていますが、保護者の方々や職員も含め大人が見るとなぜか楽しくなって笑ってしまう、なんとも不思議な存在です。

4月から新しい子どもたちを迎え、31名+職員8名でR8年度のスタートをきりました。

お馬ちゃんが運ってくれたご縁を大切に、子ども達、保護者の方々、そして職員一同もみんな含めて色々な事が「ウマ(馬)くいく年」となるよう、進んでいきたいと思えます。



電車もウマく通るかな?

担当制を見直す

いこま乳児保育園

主任保育士 小田 朝美

一人一人を大切に育てていくことで、子どもたちの日々の生活を安定させながら生活習慣を身につけることを目的とし、平成21年から担当制を取り入れました。乳児保育の大切さや、担当制の研修を受け、食事・排泄・睡眠の生活面を同じ保育士が関わることから始めました。最初はなかなか上手くいかず試行錯誤を重ね、困ったことなどを担当制会議で話し合ったり、他の保育園に見学に行かせてもらい話を聞いたりしました。必ずしも担当でないにだめということはなく、緩やかに考える必要があるというアドバイスをもらい臨機応変に進めてきました。担当制を導入したことで、子ども一人一人の生活リズムや気持ちを丁寧に受け止められるようになり、安心して過ごせる環境づくりにつながっています。また保護者とも日々の成長や小さな変化を共有しやすくなりました。そのため、今後も担当制の良さを大切にしながら継続していきたいと思っています。しかし、保育士が入れ替わり、子どもへの関わり方や担当制についての研修をする時間があまりとれないまま新学期がスタートしたため、考え方がぼやけてきて少しずつ横のつながりがなくなってきています。

学年によって少し違いはありますが、基本の手順は同じにできるように無理のない形で担当制を見直していくために、改めて担当制の目的や大切にしたい関わりについて職員間で再認識する機会を設けることが必要だと感じています。また、子どもたちにとって安心できる環境を守るために、日々の保育の振り返りや情報共有を丁寧にを行い、関わり方の共通理解を深めていくことが大切だと思っています。



大好きな先生に見守られながら

4月の取り組み

奈良県発達障害者支援センター でいあー

相談員 小畑 咲子

新年度になり、でいあーでは早速2つの講演会・研修会を実施しました。

1つ目の「自閉症啓発デー講演会」では、発達障害の当事者である京都府立大学准教授の横道誠先生をお招きしました。子ども時代の経験や診断に至るまでの経緯、自助グループや当事者研究の目的についてお話しいただきました。支援者だけでなく、当事者やご家族など多くの方が参加され、質疑応答も含めて理解を深める有意義な時間となりました。

2つ目の「ペアレントトレーニング ファシリテーター養成講座」では、奈良県内の児童発達支援事業所や放課後等デイサービスの支援者を対象に、帝塚山大学の式部陽子先生を講師にお迎えし、2日間の連続講座を行いました。県内全域から10名の参加者と6名の見学者が集まり、参加者がファシリテーター役と保護者役となり、ロールプレイを通してペアトレの基礎や運営方法、保護者

が安心できる関わり方を体験的に学びました。

でいあーでは、2026年度も講演会や研修会などを通して、発達障害のある人とその家族が地域で暮らしやすくなることを目指して取り組んでいきたいと思います。



ファシリテーター養成講座の様子

新年度を迎えて

極楽坊あすかこども園

副主幹保育教諭 中 美恵

ホールの舞台装飾が「そつえんおめでとう」から「にゅうえんおめでとう」に変わった4月、賑やかに新年度が始まりました。爽やかな風が吹き、暖かい太陽の日差しを受けて、子ども達だけでなく職員も新しい環境に、ドキドキワクワクな毎日のスタートです。

4月9日には令和8年度の入園式が行われ、40名の新入園児を迎えました。入園式には、5歳児あお組の子ども達が代表で参加し、お祝いのレイをプレゼントしたり、一緒にわらべうた遊びや手遊びを楽しんだりしました。

0歳・1歳の赤ちゃんも、保護者の方に抱かれて嬉しそうに参加していました。…が、翌日からの登園は、初めての環境に不安が一杯で大泣きです。小さな体から驚くほどの大きな声を出して泣き叫ぶので、「ごめんね」と謝ってしまう始末でした。安心できるようにスキンシップを心掛け、不安な気持ちを受け止めて優しく言葉をかけながらゆったりと関わるようにしたことで、少しずつ泣く時間が短くなり、にっこり笑顔を見せてくれるよう

になってきました。

そして5月。賑やかな泣き声が落ち着き、園庭を泳ぐこいのぼりのように、伸び伸びと好きな遊びを楽しむ姿が増え、これからどんな1年になるのか楽しみです。

今年度も楽しんで様々な活動に取り組めるように環境を整え、たくさんの笑顔を引き出せる1年にしたいと思います。



グループワークを通して～保育士の素敵発見!～ あすかの保育園

保育士 濱口 沙夜香

あすかの保育園では5年前から年に4回グループワークを行っています。乳児担任、幼児担任、給食室の先生と普段かかわりの少ない職員が3人1組同じメンバーで、仕事をする上での思いや悩み、実践について話し合います。1、2回目では日々の思いや困りごとを伝えアドバイスをもらいます。3回目では、実践を写真と共にまとめたドキュメンテーションをもとに意見交換を行います。そして4回目で1年間を振り返り、まとめをします。それぞれの立場からのこどもたちへの思いを知り、先輩からアドバイスをもらい、後輩からの新しい考えに触れることは、お互いへの理解が深まると共に自分の保育を見つめ直す機会にもなります。

私は後輩と同じグループになることが多く『頑張ったことを話そう』と声を掛けています。自分では何気なくしていることを話した時に『それってすごいことじゃない?』と言ってもらえると、それまで気づいていなかった『自分の素敵な部分』

を発見できることがあります。保育の中でこどもたちの素敵なおところは伝えていますが、職員同士で伝え合うことも大切だと思っています。

また、実践を言葉にすることは自分の保育を客観的に見ることができると共に、他の職員から意見をもらうことで新しい気づきになり、今後の保育の参考になります。さらに、ドキュメンテーションで文字や写真で伝えることは全職員に共有しやすく、感想を書いた付箋を貼ることで、より多くの視点からの学びにもなります。

『自分の良いところに気づくこと』『保育の引き出しが増えること』は喜びになり、これからの意欲になります。これからもお互いの素敵な部分を認め合い、言葉にして伝え合える関係を大切にしていきたいと思っています。

今後もグループワークが保育の引き出しを増やし、職員同士が支え合える仲間づくりの場となるようにしていきたいです。

乳児期からつながっていく育ち

新年度が始まり、乳児クラスには少し緊張した空気が流れています。初めての場所、初めて出会う大人や子どもたち。保護者と離れる場面では、不安から涙がこぼれる姿も見られます。それでも、日々の関わりの中で、ふとした瞬間に表情がやわらぎ、周りへと目を向ける姿が見えてきます。その小さな変化に、新しい生活が少しずつその子の中に根づいていく過程を感じます。

抱っこされたときの安心した表情や、まなざしが合ったときのほっとした様子。そうした一つひとつの積み重ねが、子どもたちの情緒の安定につながり、やがて自分から動き出そうとする力へと変わっていきます。乳児期に育まれる愛着や信頼関係は、その後の育ちを支える大切な基盤であり、体の発達とともに心もまた、ゆっくりと形づくられていくことを感じます。

0歳から6歳までの子どもたちが共に過ごす本園では、そのつながりを日々の中で自然と目にすることができます。乳児期に安心して過ごしていた子どもが、やがて友だちと関わりながら遊びを

いこまこども園

副主幹保育教諭 植田 登世子

広げていく姿や、自分の思いを表現していく姿へとつながっていく様子は、育ちの連続性を感じさせてくれます。また、異年齢の中で過ごすことで生まれる憧れや思いやりも、子どもたちの成長を支える大切な要素の一つだと感じます。

新年度という「はじまり」の時期に、一人ひとりの小さな変化に目を向けながら、その子らしい育ちをそっと支えていきたいと感じています。



いっしょにあそぼうね

並行通園での私たちの役割 こども支援センターあすなろメディカル

管理者・児童発達支援管理責任者 樋高 智代

「こども支援センターあすなろメディカル」は、年少、年中、年長さんのクラスがあり、保育園、こども園、幼稚園に通うお子さんが週一回利用されています。遊びや運動を楽しむ中で、わかった!できる!という自信や意欲を育てることを目標としています。

私たちの仕事は、お子さんの療育はもちろんのこと、週のほとんどを過ごされている所属園の先生方との連携はなくてはならないものとなっています。保護者様からの依頼のもとに、所属園へ訪問します。活動の様子、お友達との関わりなどを観察し、担任の先生と個別支援計画を通して共通の理解のもと連携を図ります。そして、その内容を保護者様にお伝えし、支援の方向性や課題などもお話ししています。

また、月一回の個別指導「ポータージプログラム」で保護者様、お子さん、担当保育士の3人で個別の課題に応じて取り組み、ご家庭やあすなろでの様子を共有し、具体的な関わり方などをお話ししています。

お子さんが週一回の限られた時間の中で「あすなろが楽しい! わかった! できる!」の経験を沢山積むことが出来るよう今年度も職員一同全力で楽しくワクワクする療育をしていきます。また保護者の皆様と連携を図りながら家族みんなが笑顔で過ごすことが出来るよう子育てのサポートをしていきます。



市役所前の桜
くおさんほにて

外遊びや自然に触れる機会を!

令和八年度は、「はじめのいっぽ」「どろんこの森」「地域とのふれあい交流」の通年サークル活動を実施しています。

それぞれのサークルでは「多くの外遊びや自然に触れる機会と子どもが遊びを作る側に立つ」ことを目標として活動していきたいと考えています。そのため大人は「教える人」だけではなく、「一緒に遊ぶ人」「見守る人」の役割も必要となります。

センターでは子どもたちが自由に遊べる居場所として

- ①子どもがやりたい遊びを自分で選べる
- ②多様な遊びを用意して自分の得意な遊びを見つける
- ③友だち同士や異年齢児との関わる機会を持つ
- ④子どもたちが発達に応じた「挑戦」を見守るなどを提供していき「子どもが自ら遊びを作り出すこと」や「新しい子どもとの交流の機会を増やすこと」を大切にしていきたいと考えています。今年度

平城児童センター

センター長 俣俣 おさむ

もできる限り子どもたちの希望や意見を尊重し、健やかな成長とセンターが子どものよりよい居場所となるようにしていきたいと考えています。



平城児童センター

高齢者施設より

16p

■ 梅寿荘居宅介護支援センター

17p

■ 生駒市梅寿荘地域包括支援センター
■ 梅寿荘デイセンター

18p

■ はあとぽーと梅寿荘
■ デイセンター延寿

19p

■ 特別養護老人ホームあくなみ苑
■ 特別養護老人ホーム梅寿荘

新人職員を迎えて

R8年度は、ケアマネジャー7名と事務員1名でスタートをしました。7年度末に1名の退職者がありましたが、9年ぶりに新人職員を2名迎えることが出来ました。介護職の経験はありますが、ケアマネジャーの業務は初めてになります。

前任者から利用者さん・ご家族に説明、了承をいただき担当を引き継がせていただきました。初めてお会いする利用者さんやご家族との面談に緊張があったと思います。

ケアマネ業務のアセスメント・プラン作成・パソコン業務・事業所の情報等覚えることは沢山ありますが、利用者さんの在宅支援に精いっぱい努めてくれています。

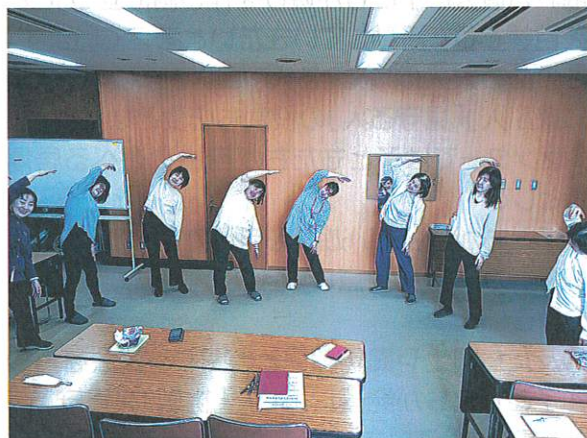
しかし、利用者さんが不安を感じることや必要な支援が受けられないような状況があってははいけません。管理者含め現任職員全員でサポートを

梅寿荘居宅介護支援センター

センター長 斉藤 洋子

行っています。

梅寿荘居宅介護支援センターのケアマネジャーとして皆さんから信頼していただけるよう、今まで以上に職員一同研鑽を続け頑張って取り組んでいきます。



今年度の事業計画

生駒市内7カ所ある地域包括支援センターでは、多職種の職員が配置されています。センター間の垣根を越えて、基幹型地域包括支援センターと協力しながら各々の部会を通じ、毎年業務内容の充実と課題の見直しを図っています。これまでも主任ケアマネ部会ではケアマネジャーの皆さんと連携して研修会を実施してきましたが、今年度も地域資源の把握や活用等の理解を深められるよう、検討していきたいと思います。

生駒市梅寿荘地域包括支援センター

主任介護支援専門員 諫山 直子

その他にも介護保険課と協議を行いながら、ケアマネハンドブックへの追加や、入退院調整マニュアルの活用状況を確認しながら、利用者にとってシームレスな連携が図れるように努めていきます。また、地域包括支援センター内や、居宅介護支援事業所において協議し、課題を明確化した上で相談に繋げていくことができるよう取り組んでいくことを今年度の計画として実施していきたいと思います。

丁寧に、誠実に

このたび、梅寿荘デイセンターは、昨年度多くの方に利用していただいたことにより、通常規模型から、大規模型へと移行となりました。これは、ご利用者やご家族、地域の皆さまに梅寿荘デイセンターを選んでいただけた結果であり、職員一同、大変ありがたく感じています。

ご利用者数の増加は、地域の中で必要とされ、信頼を寄せていただいている証でもあり、大きな喜びであると同時に、その期待に応えていく責任の重さも改めて感じています。

この責任を継続して果たしていくために、これまで以上に丁寧なサービスの提供や、職員同士の連携が求められる一年になると感じています。

梅寿荘デイセンター

生活相談員 中井 耕大

だからこそ今、ご利用者一人ひとりとの関わりをより大切に、「ここに来ると安心できる」「今日も楽しかった」と感じていただける時間づくりに、誠実に取り組んでいきたいと考えています。また、職員同士が互いに声を掛け合い、支え合いながら、ご利用者に安心して過ごしていただける温かい雰囲気づくりも大切にしていきます。

日々の小さな声や思いに耳を傾けながら、ご利用者それぞれの思いを大切に、より良い支援を届けられるよう努めます。

本年度も職員一同、力を合わせ、地域に信頼されるデイセンターを目指し邁進いたします。どうぞよろしくお願いいたします。

コミュニケーションを大切に

毎月の研修の中で、グループワークをした後の発表から、一人の職員が訪問先でのケアに違和感を覚えたと言いました。話を聞くと、「黙々とケアをしていましたが、対人援助として適切だったのか？ロボットのような感じがしました。」

この気づきを自分だけの違和感とするのではなく、皆に問いかけました。一人一人のいろいろな思いに改めて気が付きました。

ご利用者は、「お世話になっているから何にも言えなかった。」「話しかけると仕事の邪魔になる。」と感じていたかもしれません。この気づきを職員で共有し、話し合うこと、わかり合うことの大切さ

はあとぼーと梅寿荘

主任サービス提供責任者 金田 智子

を再認識しました。

ご利用者とのコミュニケーションはもちろんのこと職員同士のコミュニケーションを大切にしていかなければなりません。それぞれの感じ方のニュアンスが違うことをしっかり理解することが必要です。コロナ以降話し合う事が以前と比べると少なくなったと感じています。

今年度は他の人の意見を聞き取り、理解し合うことを意識し合い、職員一同が同じ方向を向き、相互理解を深めながらご利用者の訪問に伺いたいと思います。

変化する一年に

新年度を迎え、改めて感じていることがあります。それは、延寿テイサービスに求められる役割が、これまで以上に大きくなっている事です。ここ数年、利用者減少や人材不足など厳しい状況が続き、このままではいけない…何が足りないのか…など低迷の時期を経験したことで原点に立ち返り「地域の高齢者の方々の暮らしを支える場所」として、私達に何が求められているかを真剣に考える時期となりました。

ご利用者の皆様から求められているのが「体を動かしたい」「元気を維持したい」というニーズに対する取り組みの必要性。自分の足で歩き仲間と笑い合い、日常生活を長く続けたいと言う想いを、多くのご利用者から感じます。その為、テイサービスでも体操や歩行訓練に力を入れる事を取り組み

テイセンター延寿

主任生活相談員 黒葛原 厚子

に加えました。平行棒や運動機器等を取り入れ身体機能の維持だけでなく、みんなで楽しむことで、自然と笑顔が生まれ心の活性化にも繋がると考えます。「昨日より少し長く歩けた」「転ばずに外出できた」と目標を持つことが自信と意欲に繋がればと思います。

レクリエーションでは、新たに”朝レク”の時間を取り入れゲームやクイズなど、楽しみながら過ごす脳トレの時間は、静かな午前中から何やら楽しそうな賑やかな時へと変化しています。

新年度は新たな発想を持ち寄り、ご利用者の一人ひとりの声に耳を傾けながら、笑顔のたえない地域に必要とされるテイサービスづくりに取り組んでいきたいと思っています。

新年度を迎えて思うこと

新年度を迎え、三室園組合から宝山寺福祉事業団へと、あくなみ苑が名実ともに移譲されるという大きな節目を迎えました。とはいえ、日々の暮らしが急に変わるわけではありません。いつも通りの時間が流れています。ただ、その中に「よし、ここからもう一歩進んでいこう」という前向きな空気が、私たちの中にそっと広がっています。これまで地域の皆さまに支えていただいた日々を大切にしながら、これからも地域に寄り添える施設を目指していきたいと思っています。

一方で、運営の安定や収入の確保といった現実的な課題にも、しっかり向き合わなければなりま

特別養護老人ホームあくなみ苑

主任生活相談員 小森 康志

せん。稼働率の向上、介護サービスの質の充実、職員一人ひとりの成長など、取り組むべきことはたくさんあります。それでも、職員一人ひとりが前向きに働ける環境づくりこそが、良いサービスにつながると感じています。ご利用者やご家族に「あくなみ苑に来てよかった」と思ってもらえるよう、これからも地道に、そして時には笑顔も交えながら歩んでいきます。

移譲は終わりではなく、新しいスタートです。あくなみ苑の仲間とともに、地域に根ざした施設として、また一歩成長できる一年にしていきたいと思っています。

新年度を迎えて

今年度梅寿荘では、「地域により一層貢献できる施設づくり」「AIやICTの活用」「働きやすい職場の環境づくりの推進」について取り組みたいと考えています。

具体的には、これまで以上に自治会活動に参加し、地域住民の方々との交流を深め、さらには災害時の連携強化など、地域に安心と信頼を届ける存在になれるようにしていきたいと思っています。

また、AIやICTの活用をさらに推進し、記録業務の自動化、見守りセンサーの活用、情報共有システムの整備など業務の効率化にて、職員の負担軽減と利用者の安全性の向上を図ります。これにより、職員がより多くの時間を利用者との

特別養護老人ホーム梅寿荘

主任生活相談員 黒川 美穂

関わりに充てることができ、サービスの質の向上にもつながります。

さらに、働きやすい職場環境づくりにも重点的に取り組みます。昨年度は、全職員に複数回アンケートを実施し、職員間のコミュニケーション不足や連携の課題が明らかになりました。今年度はその課題解決に向け、定期的な意見交換会の開催や情報共有ツールの導入、相談しやすい職場風土づくりを進めていきます。

これらの取り組みを通じて、利用者、地域、職員すべての方にとってより良い施設になれるように、今年度も少しずつかもしれませんが着実に前進していきたいと思っています。

【第6回理事会】 令和8年3月24日(火) 桃李館研修室

- 第1号議案 令和7年度第二次資金収支補正予算案の承認を求める件
- 第2号議案 令和8年度事業計画案及び当初予算案の承認を求める件
- 第3号議案 定款変更の承認を求める件
- 第4号議案 施設長人事について承認を求める件
- 第5号議案 理事長、業務執行理事の職務執行状況報告の件
- 第6号議案 諸規定の改正について承認を求める件
- 第7号議案 評議員会を招集する件

【文書 評議員会】 令和8年3月30日(月)

- 第1号議案 定款変更案のとおり定款を変更する件



ひめゆり通信
ニュース

令和8年5月10日、第55回生駒市民スポーツ大会が行われ、法人弓道部からも2名の選手が出場いたしました!

気になる結果は…

★一般男子の部 2位!

伊藤 智宣(梅寿荘デイセンター センター長)

★一般女子の部 3位!

加藤 歩美(いこま乳児院 事務員)

と見事な成績を収めました!

今後も法人弓道部に注目と応援を宜しく願います。



法人単位資金収支計算書

(自)令和 7年 4月 1日(至)令和 8年 3月31日

(単位:円)

勘定科目		予算(A)	決算(B)	差異(A)-(B)	備考
事業活動による収支	収入				
	介護保険事業収入	1,867,784,000	1,866,765,035	1,018,965	
	老人福祉事業収入	140,652,000	144,044,616	△3,392,616	
	児童福祉事業収入	519,646,000	521,496,826	△1,850,826	
	保育事業収入	899,444,000	903,373,414	△3,929,414	
	障害福祉サービス等事業収入	458,995,000	458,500,785	494,215	
	ヘルパー養成事業収入	250,000	200,000	50,000	
	経常経費寄附金収入	33,878,000	33,184,084	693,916	
	受取利息配当金収入	5,417,000	5,989,630	△572,630	
	その他の収入	38,517,000	38,311,017	205,983	
	事業活動収入計(1)	3,964,583,000	3,971,865,407	△7,282,407	
支出	人件費支出	2,796,085,000	2,761,602,168	34,482,832	
	事業費支出	534,690,000	513,754,881	20,935,119	
	事務費支出	432,827,000	406,240,162	26,586,838	
	その他の支出	25,530,000	24,651,111	878,889	
	流動資産評価損等による資金減少額		1,435	△1,435	
事業活動支出計(2)	3,789,132,000	3,706,249,757	82,882,243		
事業活動資金収支差額(3)=(1)-(2)	175,451,000	265,615,650	△90,164,650		
施設整備等による収支	収入				
	施設整備等補助金収入	8,915,000	9,101,350	△186,350	
	固定資産売却収入	60,000	60,000	0	
	施設整備等収入計(4)	8,975,000	9,161,350	△186,350	
	支出				
	固定資産取得支出	100,246,000	92,465,991	7,780,009	
固定資産除却・廃棄支出	23,000	22,000	1,000		
ファイナンス・リース債務の返済支出	10,233,000	9,656,488	576,512		
施設整備等支出計(5)	110,502,000	102,144,479	8,357,521		
施設整備等資金収支差額(6)=(4)-(5)	△101,527,000	△92,983,129	△8,543,871		
その他の活動による収支	収入				
	長期貸付金回収収入	150,000	150,000	0	
	積立資産取崩収入	72,500,000	72,539,625	△39,625	
	その他の活動収入計(7)	72,650,000	72,689,625	△39,625	
	支出				
	長期貸付金支出	1,005,000	1,005,000	0	
積立資産支出	208,034,000	216,775,750	△8,741,750		
その他の活動による支出	150,000	150,000	0		
その他の活動支出計(8)	209,189,000	217,930,750	△8,741,750		
その他の活動資金収支差額(9)=(7)-(8)	△136,539,000	△145,241,125	8,702,125		
予備費支出(10)	0	—	0		
当期資金収支差額合計(11)=(3)+(6)+(9)-(10)	△62,615,000	27,391,396	△90,006,396		
前期末支払資金残高(12)	876,991,000	877,002,873	△11,873		
当期末支払資金残高(11)+(12)	814,376,000	904,394,269	△90,018,269		

法人単位事業活動計算書

(自)令和 7年 4月 1日(至)令和 8年 3月31日

(単位:円)

勘定科目		当年度決算(A)	前年度決算(B)	増減(A)-(B)
サービス活動増減の部	収益			
	介護保険事業収益	1,866,765,035	1,772,762,596	94,002,439
	老人福祉事業収益	130,434,141	112,437,014	17,997,127
	児童福祉事業収益	521,496,826	498,465,223	23,031,603
	保育事業収益	903,373,414	881,634,316	21,739,098
	障害福祉サービス等事業収益	458,500,785	493,035,009	△34,534,224
	ヘルパー養成事業収益	200,000	250,000	△50,000
	経常経費寄附金収益	33,184,084	11,834,447	21,349,637
	サービス活動収益計(1)	3,913,954,285	3,770,418,605	143,535,680
	費用			
人件費	2,758,279,168	2,714,836,011	43,443,157	
事業費	499,146,531	508,153,498	△9,006,967	
事務費	406,240,162	384,232,530	22,007,632	
減価償却費	229,652,696	231,884,934	△2,232,238	
国庫補助金等特別積立金取崩額	△101,313,769	△102,583,021	1,269,252	
徴収不能額	1,435	28,196	△26,761	
サービス活動費用計(2)	3,792,006,223	3,736,552,148	55,454,075	
サービス活動増減差額(3)=(1)-(2)	121,948,062	33,866,457	88,081,605	
サービス活動外増減の部	収益			
	受取利息配当金収益	5,989,630	3,528,335	2,461,295
	基本財産評価益	30,000		30,000
	投資有価証券評価益	2,595,681		2,595,681
	その他のサービス活動外収益	38,311,017	49,730,739	△11,419,722
	サービス活動外収益計(4)	46,926,328	53,259,074	△6,332,746
	費用			
	基本財産評価損		1,262,000	△1,262,000
	投資有価証券評価損		23,712,436	△23,712,436
	その他のサービス活動外費用	24,831,511	21,805,688	3,025,823
サービス活動外費用計(5)	24,831,511	46,780,124	△21,948,613	
サービス活動外増減差額(6)=(4)-(5)	22,094,817	6,478,950	15,615,867	
経常増減差額(7)=(3)+(6)	144,042,879	40,345,407	103,697,472	
特別増減の部	収益			
	施設整備等補助金収益	9,101,350	4,263,255	4,838,095
	施設整備等寄附金収益		500,000	△500,000
	固定資産受贈額		2,000,000	△2,000,000
	固定資産売却益	59,998	232,276	△172,278
	特別収益計(8)	9,161,348	6,995,531	2,165,817
	費用			
	固定資産売却損・処分損	105,313	106,076,695	△105,971,382
	国庫補助金等特別積立金取崩額(除却等)	△83,277		△83,277
	国庫補助金等特別積立金積立額	9,101,350	4,263,255	4,838,095
特別費用計(9)	9,123,386	110,339,950	△101,216,564	
特別増減差額(10)=(8)-(9)	37,962	△103,344,419	103,382,381	
当期活動増減差額(11)=(7)+(10)	144,080,841	△62,999,012	207,079,853	
繰越活動増減差額の部	前期繰越活動増減差額(12)	1,610,078,424	1,754,367,436	△144,289,012
	当期末繰越活動増減差額(13)=(11)+(12)	1,754,159,265	1,691,368,424	62,790,841
	基本金取崩額(14)			
	その他の積立金取崩額(15)	49,500,000	79,110,000	△29,610,000
	その他の積立金積立額(16)	194,734,000	160,400,000	34,334,000
	次期繰越活動増減差額(17)=(13)+(14)+(15)-(16)	1,608,925,265	1,610,078,424	△1,153,159

法人単位貸借対照表

令和 8年 3月31日現在

(単位:円)

資産の部				負債の部			
	当年度末	前年度末	増減		当年度末	前年度末	増減
流動資産	1,098,971,589	1,073,202,961	25,768,628	流動負債	314,362,808	307,242,376	7,120,432
現金預金	643,018,428	564,567,510	78,450,918	事業未払金	144,137,452	143,073,028	1,064,424
事業未収金	395,996,324	446,249,246	△50,252,922	その他の未払金	112,000	0	112,000
未収金	95,864	603,998	△508,134	1年以内返済予定設備資金借入金	7,832,000	0	7,832,000
未収補助金	44,994,388	45,367,647	△373,259	1年以内返済予定リース債務	12,898,488	8,664,288	4,234,200
貯蔵品	615,560	809,790	△194,230	預り金	1,238,861	584,417	654,444
立替金	797,855	907,095	△109,240	職員預り金	49,089,007	52,542,643	△3,453,636
前払金	2,919,095	10,316,830	△7,397,735	賞与引当金	99,055,000	102,378,000	△3,323,000
前払費用	10,534,075	3,375,845	7,158,230				
短期貸付金	0	1,005,000	△1,005,000				
固定資産	6,001,307,610	5,954,432,824	46,874,786	固定負債	511,704,290	497,966,453	13,737,837
基本財産	3,527,137,440	3,641,881,875	△114,744,435	設備資金借入金	342,168,000	350,000,000	△7,832,000
土地	323,061,540	323,061,540	0	リース債務	39,175,740	16,608,028	22,567,712
建物	3,200,855,900	3,315,630,335	△114,774,435	長期預り金	130,360,550	131,358,425	△997,875
投資有価証券	3,220,000	3,190,000	30,000	負債の部合計	826,067,098	805,208,829	20,858,269
その他の固定資産	2,474,170,170	2,312,550,949	161,619,221	純資産の部			
土地	4,433,872	4,433,872	0	基本金	787,653,360	787,653,360	0
建物	5,955,941	6,002,073	△46,132	国庫補助金等特別積立金	1,906,728,390	1,999,024,086	△92,295,696
構築物	126,909,532	137,279,670	△10,370,138	その他の積立金	1,970,905,086	1,825,671,086	145,234,000
車輛運搬具	11,187,073	8,457,220	2,729,853	人件費積立金	247,750,000	235,250,000	12,500,000
器具及び備品	99,014,391	104,187,540	△5,173,149	施設整備等積立金	1,285,940,000	1,175,330,000	110,610,000
有形リース資産	55,816,759	29,097,778	26,718,981	ひめゆり基金運営積立金	33,534,000	31,148,000	2,386,000
ソフトウェア	109,084	186,084	△77,000	社会福祉事業等運営積立金	177,700,000	182,200,000	△4,500,000
投資有価証券	68,172,882	65,577,201	2,595,681	公益事業等運営積立金	122,365,000	119,365,000	3,000,000
長期貸付金	855,000		855,000	福祉基金積立金	103,616,086	82,378,086	21,238,000
長期預り金積立資産	130,360,550	131,358,425	△997,875	次期繰越活動増減差額	1,608,925,265	1,610,078,424	△1,153,159
人件費積立資産	247,750,000	235,250,000	12,500,000	(うち当期活動増減差額)	144,080,841	△62,999,012	207,079,853
施設整備等積立資産	1,285,940,000	1,175,330,000	110,610,000				
ひめゆり基金運営積立資産	33,534,000	31,148,000	2,386,000				
社会福祉事業等運営積立資産	177,700,000	182,200,000	△4,500,000				
公益事業等運営積立資産	122,365,000	119,365,000	3,000,000				
福祉基金積立資産	103,616,086	82,378,086	21,238,000				
差入保証金	450,000	300,000	150,000	純資産の部合計	6,274,212,101	6,222,426,956	51,785,145
資産の部合計	7,100,279,199	7,027,635,785	72,643,414	負債及び純資産の部合計	7,100,279,199	7,027,635,785	72,643,414

◆編集後記

編集を行っている今は鮮やかな新緑の5月を迎えています、皆様は如何お過ごしだったでしょうか?この季節が好きという方は多いのでしょうか。私も大好きな季節です。しかし5月は寒暖差が大きくて肌のバリア機能が低下して湿疹ができたり、花粉などで鼻や喉を痛めたりと体調管理には気を付けたいシーズンですね。そうそう、体調管理といえば皆様は大丈夫でしょうか?今、テレビやSNSで囁かれてる「謎の風邪!」私の周りにも、その謎の風邪らしきものに罹っている人が数人います。「熱は無いんだけど咳が止まらなくて」など症状もまちまち。7月ごろまでには原因となっているだろうウイルスが判明するそうです。それまでは特効薬が無いとのこと。手洗い、マスク、しっかり食べて良く眠り、笑顔で免疫機能をUPしたいものです。 (森本)